

Q 近年の大雨被害（白石川沿いの浸水）や猛暑・屋外施設の暑さ対策が重要だと思うが、どのような対策を考えているのか。

A **大雨対策**
管理棟周辺の地盤面は堤防天端よりおおむね60～80cm程高い計画である。また、施設内の雨水を滞りなく調整池へ排水する計画となっている。

暑さ対策
管理棟は空調設備を備え、その中には乳幼児を対象としたキッズスペースを設け、こどもが屋内で遊び、保護者がカフェなどを利用しながら見守ることができる場所を用意する。
また、屋外の屋根付き空間や植栽による木陰と併せて、暑さをしのげる場所を確保する。

Q 夏季は、午前10時の開場ではなく午前9時など涼しい時間帯から利用できるようにすることも重要である。また、上部から霧が降りるミスト設備やこどもが水に触れて遊べる仕掛けがあれば暑さ対策として有効なのではないか。

A 現時点では、営業時間は午前10時からを想定しているが、夏季には早朝利用の要望が生じる可能性があるため開場時間の繰上げなど柔軟に対応したい。
また、イベント時には提携先が保有するミスト車を導入することも検討している。

Q 調整池は、このスポーツパークを整備するにあたり必要なのか。また、調整池は施設内に降った雨水を溜めるものなのか、周辺地域から流れてくる雨水のためなのか。

A 一定規模以上の開発を行う際に調整池が必要となるため、施設独自の調整池として整備している。本調整池の対象は、基本的に施設内に降った雨水である。

Q 維持管理運営期間の収支はどのような構造になっているのか。

A 施設の使用料は町へ納付され、SPCは町から運営及び維持管理に必要な費用を指定管理料として受領し、その範囲内で施設を運営する。
カフェについては、民間収益施設としてSPCが独立採算で運営し、町から委託料を受けずに事業実施に伴う使用料を町へ支払う。各種スクールやイベント等の自主事業もSPCの独立採算事業として実施する。

Q 赤字になった場合の対応策は考えているのか。

A 売上の管理は常にモニタリングすることで状況を把握し、改善を重ね一定水準を保てるよう努力していきたいと考えている。

賑わい交流拠点施設の整備の進捗については、町ホームページで更新してまいりますので、右記二次元コードからご覧ください。



問合先 地域整備課 都市計画係（3階③番窓口） ☎0224-53-2445

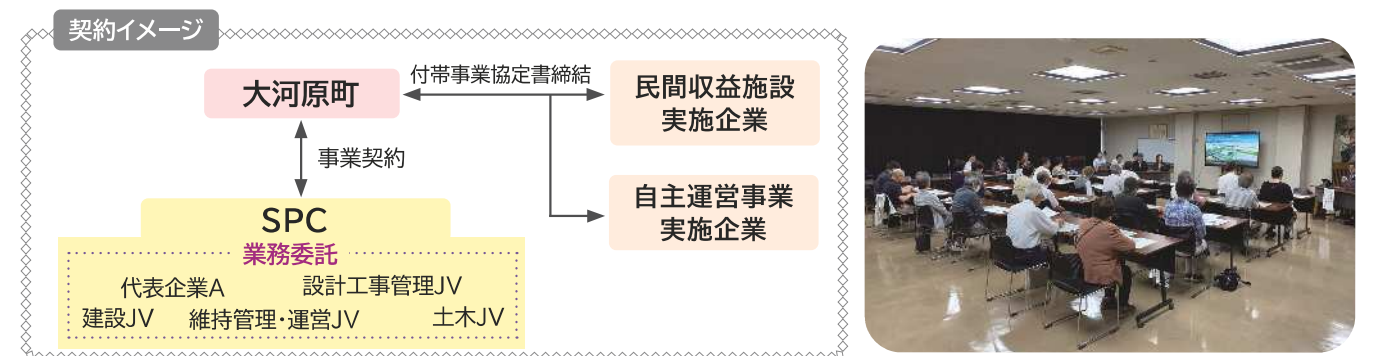
にぎ 賑わい交流拠点施設 住民説明会を開催しました

町では、「心身と社会が健康で幸福な状態が継続する Well-being なまちづくり」を推進するため、白石川右岸河川敷等に幅広い年代が楽しめるスポーツ施設や交流施設として「おおがわら千本桜スポーツパーク」を整備しております。

今回、SPC※（大河原千本桜パークパートナーズ株式会社）による「賑わい交流拠点施設」の基本設計が完成し、施設の概観や完成後の運営方法などに対し、皆さまからご意見をいただくために、住民説明会を開催しました。

ご参加いただいた皆さまから、多くの質問・意見をいただきましたので、その一部を掲載します。

※ SPC（Special Purpose Company）とは…ある特別の事業を行うことを目的に設立された事業会社のこと。



開催概要

全3会場で開催し、延べ53名のかたに参加いただきました。

開催日時	会場	参加人数
8月29日(土) 9時30分～	大河原南小学校 アッセンブリホール	10名
8月29日(土) 14時00分～	大河原町役場 大会議室	23名
8月30日(日) 9時30分～	大河原町役場 大会議室	8名
8月30日(日) 14時00分～	金ヶ瀬公民館	12名

説明内容

- ・施設の概観、整備内容について
- ・施設完成後の活用方法について
- ・施工スケジュールについて

質疑応答

施設内容

Q この施設のメインは何であると捉えているか。

A 設計としては、白石川や堤防の桜、蔵王が望めるロケーションを楽しんでもらえる川のテラスをメインとして考えている。

Q 屋根付きちびっこ広場の中には、どのような遊具が配置されるのか。また雨や雪など天候の悪い場合の幼児の遊び場は確保されているのか。

A 築山に滑り台がついたものと座って遊べる砂場をメインに配置するよう検討している。小さいお子さんは、1人で遊ぶより保護者とともに遊ぶことが多い傾向にあるため、親子で楽しめる空間となるような設計にしている。また、管理棟の中にも幼児を対象としたキッズスペースを確保している。